

秋田の酒、食品売り込み

東京日本橋 50社参加、物産展開幕



県産の日本酒と食品をアピールする「あきた食と酒のコラボレーション」が26日、東京・日本橋の第四銀行東京支店展示販売スペースで始まりました。秋田銀行、県物産振興会、県酒造協同組合の主催。来月3日まで。

県内企業の販路拡大と本県の食文化紹介を目的に、秋田銀行が呼び掛けて初めて開いた。県内酒造メーカーや食品会社など約50社が参加。期間中は新酒のほか、稲庭うどん、横手やきそば、バタ一餅、いぶりがっこなど、本県ならではの食品を販売する。第四銀行は、地元の新潟はじめ各県が開く物産展へ、スペースを積極的に提供して

いる。

26日は、なまほげや本県のマスコット「スギッチ」が登場してオープニングイベント

にしたい」とあります。訪れた首都圏の企業関係者らは、「（本県は）今秋にデステイネーションキャンペーン」を行なった。

が行われた。秋田銀行の西村典剛取締役執行役員が「（本県は）来年には国民文化祭を控えている。これらのイベントを前に、秋田を訪れたいと思う。でもうしきつけ

（赤石昌之）

キャンペーン隊が来社

日本航空が和歌山県を対象に始めた路線運賃割引に合わせて、同県観光キャンペーン

（赤石昌之）

として、同県観光キャンペーンスタッフ「きのぐにフレンズ」の向井沙紀さん（21）らが26日、秋田魁新報社を訪れ、同県をPRした。

日航は今月から、秋田、青森両県と北海道の9空港から羽田を経由し、南紀白浜（和歌山県）を結ぶ路線を利用す

る際、運賃が最大半額以下と



ヤトス 話山は温三ベ飼山 航霧2万

和歌山県の見どころをアピールする向井さん（中央）と同県の観光PRキャラクター「わかばん」（右）